

わたしたちの完全な模範

大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

回復されたイエス・キリストの福音のメッセージは、すべての人はこの世にいるかぎり、より善い者になれるし、また、そのような希望を持たなければならないと教えています。

この安息日にお話の機会が与えられたことを祝福と感じています。環境や経験は異なっても、わたしたちは皆同じように、より善い者になりたいと願っています。中には思い違いをして、自分はもうこれ以上善くなる必要はないと感じている人もいれば、より善くなることをあきらめてしまっている人もいます。しかし、回復されたイエス・キリストの福音のメッセージは、すべての人はこの世にいるかぎり、より善い者になれるし、また、そのような希望を持たなければならないと教えています。

そのような希望は、神から預言者ジョセフ・スミスに授けられた啓示の中で与えられました。それは、わたしたち皆が救い主にお会いするときのことについて、またそのときまでに、どのような備えをし、どのような望みを持つべきかについて教えています。

それはモロナイ書に書かれています。「したがって、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、また神の子となれるように、熱意を込めて御父に祈りなさい。また、御子が御自身を現されるときに、わたしたちはありのままの御姿の御子にまみえるので、御子に似た者となれるように、またわたしたちがこの希望を持てるように、さらにわたしたちが清められて清い御子と同じようになれるよう、熱意を込めて御父に祈りなさい。アーメン。」<sup>1</sup>

この聖句を読めば、現在どれほど大変な状況にあっても、信仰深い末日聖徒たちが将来を楽観している理由が理解できることでしょう。わたしたちは、イエス・キリストの福音に生きることにより、完全な御方である救い主のようになれると信じているのです。イエス・キリストの属性について考えるなら、自分には改善すべき点はないと言って自己満足している人の慢心はくじかれるでしょう。また、自分は最もつまらない存在だと思っている人は、御自分のようになりなさいという救い主の招きを聞いて希望を感じるでしょう。

わたしは、子供のために書かれた歌によって、そのようなすばらしい変化がどのように起こるかについて学びました。ある日曜日にこの歌を歌っていた部屋いっぱいの子供たちの顔をよく覚えています。どの子も、いすから落ちるくらい身を乗り出していました。大きな声で歌う子供たちの目は輝き、顔には決意がうかがえました。皆さんも恐らく聞いたことがある歌です。わたしは、この歌が常にわたしたちの頭の中に響き渡るように願っています。あの子たちの熱意をわたしたちの頭に響き渡る歌に加えられたらどんなにすばらしいでしょう。

わたしもなりたいイエス様のように  
言葉行いで愛を示そう  
誘惑もあるけれど  
耳傾けよう小さな声に  
「互いに愛し合え  
イエス様のように  
イエス様の教え  
人に優しく」2

わたしには、子供たちは単に歌っているのではなく、決意を宣言しているかのように見えました。イエス・キリストが彼らの模範でした。彼らは主のようになるべく固く決意していました。子供たちの熱意に満ちた顔、輝くひとみには一点の曇りもないことがはっきりと分かりました。彼らは成功できると信じていました。完全になるようにという救い主の教えは、単なる望みではなく戒めであると信じ、救い主がすでに道を備えてくださっていると確信していたのです。

その決意と確信は、末日聖徒一人一人が心の中に抱けますし、また、そうならなければなりません。救い主は、御自身の贖いと模範を通して、その道を備えてくださいました。そして、あの歌を歌った子供たちでさえどのようにすればよいか知っていたのです。

愛とは動機を与える原則であり、この原則によって、わたしたちの完全な模範である主は、わたしたちが御自身のようになれるよう導いてくださいます。わたしたちは生涯の一時一時を、神への愛と人への愛とで満たさなければなりません。驚くことはありません。主はそれがいちばん大切な戒めであると宣言しておられるのですから。神への愛が、神の戒めを守るよう導いてくれるのです。そして人々への愛が、神に従う力の中心になるのです。

イエスはこの地上で教え導いていたときに、御自身のようになるためにぜひとも必要とされる純粋な愛の模範として子供を引き合いに出されました。同様に主は、御自身のように愛することを学ぶための理想的な環境の例として家庭を引き合いに出しておられます。

なぜなら、最も大きな喜びと最も大きな悲しみを経験する場所は、家族関係の中にあるからです。喜びが訪れるのは、相手の幸せを自分より優先したときです。それこそが愛です。悲しみが訪れるのは利己的、すなわち愛のない状態にあるときです。神が望まれる理想は、いつも喜びへ導かれ、悲しみから遠ざかるような家族関係を築くことです。神の理想では、男性と女性は相手の幸せと喜びを自分の生活の中心にするという神聖な聖約を交わすことになっています。子供たちは、子供たちの必要を自分たちの必要と同じくらい大切に考える両親のもとに生まれることになっています。そして子供たちは両親と互いを愛することになっているのです。

それが愛ある家族の理想です。多くの家庭には「家族は永遠に」という言葉が飾ってあります。わたしの家のそばに、子供や孫を残してこの世を去った女性の墓があります。彼女と夫は神の神殿の儀式を受け、互いと子孫とに永遠に結び固め

られました。墓石にはこのように刻まれています。「どうか、空席を作らないでください。」彼女がそう墓石に刻ませたのは、家族が永遠に結ばれるかどうかは家族一人一人の選択に懸かっていることを理解していたからです。「どうか」という言葉があるのは、神も彼女も強制的に人に幸福を選択させることができないからです。そしてサタンがいて、この世でも次の世でも家族に幸せではなく、不幸をもたらしたいと望んでいます。

今日わたしは、難しそうに思えるかもしれませんが、次の世で皆さんの家族に空席ができないようにするための選択を、幾つか提案したいと思っています。

第1に、夫と妻の皆さんに勧告します。互いの長所を見ることができるよう愛を祈り求めてください。弱点や失敗が小さく見えるような愛を祈り求めてください。相手の喜びを自分の喜びとできるような愛を祈り求めてください。相手の重荷を減らし悲しみを和らげるような愛を祈り求めてください。

わたしの両親はそのような夫婦でした。母が病気で亡くなる前、父は、母の病状が悪くなればなるほど、母に慰めを与えることを生活の中心にしていきました。父は病院に話して、母の部屋に簡易ベッドを設置してもらいました。父は、母が何の不便も感じないように、自分が付き添うことに決めました。母にとって困難だった時期を通じて、父は毎朝数キロ歩いて仕事に行き、毎晩歩いて母のもとに帰りました。母が特に父の愛を必要としていたときに父の愛する力が大きくなったことは、確かに、神からの賜物でした。父はイエスが愛によってなさるであろうことをしていたのだと思います。

さて、迷える子供を持つ親の皆さんに勧告します。救い主は愛を貫くことの完全な模範でいらっしゃいます。よく御存じのように、救い主は御自分のもとへ来るようにという招きを拒んだニーフアイ人に慰めの言葉をおかけになりました。主の十字架の後にもたらされた破壊を生き延びた人々に主は言われました。「おお、わたしが命を助けたイスラエルの家よ。あなたがたが悔い改め、十分に固い決意をもってわたしに立ち返るならば、めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度も集めよう。」<sup>3</sup>

放蕩息子のたとえば、わたしたち全員に希望を与えてくれます。放蕩息子は家のことを思い出しました。そのように皆さんの子供たちも家のことを思い出しましょう。皆さんの愛を思い出し、戻って来るでしょう。オーソン・F・ホイットニー長老は1929年の総大会で驚くべき約束をしました。神殿で子供たちと結び固められたことを尊んでいる忠実な親たちにとってそれは真実の約束であるとわたしは知っています。「迷える羊もいますが、羊飼いの目は彼らのうえにあります。そして遅かれ早かれ、彼らは神の手が自分に触れ、群れに戻そうとしているのを感じるでしょう。」

ホイットニー長老は続けました。「不注意で不従順な子供のために祈ってください。信仰をもって、彼らを手放さないでください。神の救いを見るときまで、希望を持ち、信じ続けてください。」<sup>4</sup>皆さんは子供のために祈り、愛し、イエスが一緒に手を差し伸べていてくださることを確信しながら、手を差し伸べること

ができます。皆さんがあきらめないかぎり、皆さんは主がなさるであろうことをしているのです。

さて、子供たちに勧告します。主は皆さんに約束の伴う戒めを与えてくださいました。「あなたの父と母を敬いなさい。主なるあなたの神があなたに与える地で、末長く暮らせるためである。」50戒の中で約束の伴う戒めはこの一つだけです。両親が亡くなった人もいるかもしれませんが。自分の親には、子供から敬われる資格はないと感じる人もいるかもしれませんが。親に会ったことすらない人もいるかもしれませんが。でも皆さんの命があるのは両親のおかげです。そして、どんな場合でも、たとえ皆さんの寿命は延びないとしても、ただ両親に対する敬いの気持ちを抱くことにより、皆さんの人生はより良いものになるのです。

さて、ほかの人の家族をあたかも自分の家族のように養子にした方々に申し上げます。ある友人は、わたしの子供の誕生日を、わたしよりもよく覚えています。妻とわたしには、祝日になると欠かさずあいさつに来る友人がいます。開口一番「ご家族はいかがですか」と尋ね、愛情深い表情で耳を傾ける友人に感動することがよくあります。彼らは、わたしが一人一人の子供の生活ぶりについて話す間、じっと耳を傾けて聞いてくれます。彼らの愛を通じて、救い主がどれほどわたしの子供たちを愛しておられるかをよく感じるすることができます。彼らが問いかけてきてくれるとき、彼らはイエスが感じられるように感じ、イエスが尋ねられるように尋ねているのだとわたしには分かります。

わたしたち全員にとって、日々の生活の中で自分の愛が増し、わたしたちの完全な模範である救い主に似てきていることに気づくのは難しいことかもしれません。わたしは皆さんを励ましたいと思います。皆さんにはもっとイエスのようになる道を歩んでいる証拠があります。時々、不安や試練の中で、自分が幼子のように感じたことがあるのを思い出してください。子供たちがあの歌を歌っている様子を思い浮かべてください。あの子供たちのように「わたしもなりたい イエス様のように」と歌いたいと思ったときのことを思い出してください。多分それはそんなに昔のことではないでしょう。イエスが弟子たちに子供たちを連れて来なさいとおっしゃったことを思い出してください。「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。……神の国はこのような者の国である。」6皆さんはイエスのようになるろうとしたときに、汚れのない幼子が抱く平安を感じたことがあるはずです。

それは皆さんがバプテスマを受けたときだったかもしれません。主にはバプテスマが必要ありませんでした。清くあられたからです。でも皆さんがバプテスマを受けたとき、皆さんは洗われて幼子のように清くなったと感じました。主がバプテスマを受けられたとき、天が開き、主は天の御父の声をお聞きになりました。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」7皆さんには声が聞こえませんでした。でも、イエスがなさったとおりに行ったことを天の御父が認めておられるのを感じたはずです。

皆さんは伴侶に謝ったときや、失敗したり言うことを聞かなかったりした子供を赦してあげたときに、その気持ちを家庭の中で感じたことがあるでしょう。皆さ

んがイエスならなさると知っていることをしようとするなら、そのような瞬間はもっと頻繁に訪れます。主は皆さんを贖われました。ですから、皆さんが幼子のように従順になるときに、皆さんに対する主の愛と、主に対する皆さんの愛を皆さんは感じる事ができるのです。それは、主の忠実な弟子に約束された賜物です。そしてこの賜物は皆さんだけでなく、皆さんの愛する家族にももたらされます。その約束は第三ニューファイに記されています。「あなたの子孫は皆、主によって教えを受け、あなたの子孫の平安は深い。」<sup>8</sup>

今日出て行って、主がなさったように行い、主が愛しておられるように愛する機会を探してください。そうすれば、子供のころに感じた平安が皆さんをしばしば訪れ、皆さんのもとにとどまることを約束します。主が弟子たちにされた約束は真実です。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。」<sup>9</sup>

だれもがまだ不完全です。しかし、完成への道をたどっていることをしばしば確信することができます。主は導き、御自分に従うよう手招きしておられます。

わたしは証します。その道とは、イエス・キリストを信じ、バプテスマを受け、聖霊を受け、愛をもって主の戒めを終わりまで守り続けることです。御父は生きて、わたしたちを愛しておられます。御父はその独り子であり、わたしたちの完全な模範である主イエス・キリストを愛しておられます。ジョセフ・スミスは回復の預言者でした。ジョセフは御父と御子にまみえました。それが真実であることを知っています。末日聖徒イエス・キリスト教会には儀式を施す神権の力がああり、儀式を通じてわたしたちはますます善い者となり、ついに救い主と天の御父のようになれるのです。皆さんが幼子のときに感じた確信を感じることができますように、皆さんにわたしの祝福を残します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. モロナイ 7 : 48
2. 「イエス様のように」 『子供の歌集』 40-41
3. 3 ニューファイ 10 : 6
4. オーソン・F・ホイットニー, Conference Report, 1929年4月, 110
5. モーサヤ 13 : 20
6. マルコ 10 : 14
7. マタイ 3 : 17
8. 3 ニューファイ 22 : 13
9. ヨハネ 14 : 27